学校研究

１．＜研究主題＞

「生徒が主体的に学び、思考を深める授業づくり」
～聴き合い、話し合える人間関係を基盤に～

２．＜主題設定の理由＞

一昨年度から，温かい人間関係づくりや学習基盤整備を土台に，授業改善と総合的な学習の時間の取組を柱に，探究的な学習を中核として研究を進めてきた。昨年度の学習アンケートから「話し合い活動では，自分の意見や考えを伝えている」のポイントが下がってきていることがうかがえた。伝え方や説明の仕方など，教科によって用語の定着を図っているものの，どのように使えば良いかを分かっていないという生徒の現状もある。

まず，学校教育において，話し合い活動は各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間等，様々な場面で行われる活動である。話し合い活動を通して，自分と他者の思いや考えの違いを知ることから，互いに尊重し合うこと，認め合うこと，支え合うことを学んでいく。生徒の中には，話し合い活動の中で，自分の考えや思いを伝えることに困難や不安を感じている生徒もいる。生徒が自分の思いや考えを安心して伝えられるためには，まずは「聴く」ことが肝要である。自分の思いが十分に傾聴されることが，「自分のことを受け入れてくれている」，「もっと話したい」という安心感につながり，話し合い活動を充実させると考え，「聴き合い，話し合える人間関係づくり」に重点を置いて研究を進めていきたい。

次に，「授業改善」に関わって，「①探究したくなる課題の設定」と「②主体的に学びを深めていけるような発問・コーディネートの工夫」という２つに絞り，生徒が探究を進めていけるよう考えてきた。ルールや役割分担・意見の述べ方などを全校共通理解する取り組みを通して多くの教科・授業で取り入れてきたが，その場面さえ作ればよいというのではなく，いかに生徒の深い学びにつなげることができたかが肝要である。課題や題材，授業の流れがどうであれば，生徒同士で意見の練り上げが行われたり，個人の思考が深まったりするのか，そして，それを活かすための教師のコーディネートがどうであるかが，今年も重点としたいことことの１つである。生徒が自ら学びを進めていくときには，生徒自身が「なぜ」や「どうすれば」と思うことが重要になるが，その疑問をいかに教師が作り出せるかに寄与する。これらの研究を進めることで，教師の授業力向上，そして生徒の学力向上につながると考える。教科を問わず，生徒が主体的に取り組める活動であってこそ探究活動であり，探究活動によって生徒の学びが深まっていくことも大いにあるため，今年度も探究に関わる研究を継続していきたい。

そこで今年度は，「温かい人間関係づくりを基盤にし，豊かな人間力のある生徒の育成」の学校教育目標のもと，昨年度の取り組みを継続しながら，上記の研究主題を設定し，研究を進めることとする。

なお，研究の推進にあたっては教職員のさらなるコーディネート力・実践力の向上に向けて，校内研修を年間計画に盛り込み，授業改善に向けた研修を行っていくこととする。また学習指導部，生徒指導部，教科部会，学年部会との連携を図りながら，教職員全体にとっても実りある研究の推進に努めていきたい。

３．＜研究内容＞

＜授業改善の視点＞
①探求したくなる課題の設定
②自主的に学びを深めていけるような発問・コーディネートの工夫

（１）授業改善の取り組み

①授業展開の工夫

・探究したくなるような課題の設定をする。
・自主的に学びを深めていけるような発問・コーディネートをする。
・本時のねらいに迫った既習事項の明確化を図る。黒板に提示することで思考を促す。
・聴き合う，話し合う場面の設定をする。
効果的な学習形態（ペア学習・グループ学習）や発表形態（話型）の工夫をする。
個人思考・集団思考，そのあとの個人思考ができるよう，適切な時間の確保をする。
・学習用端末の効果的な利用法を心がける。
・ワークシートの工夫をする。
・生徒自身が表現する学びの実感や達成感のあるふり返りを心がける。

②単元全体を見通した指導計画（評価計画を含めて）を活かす

・教師と生徒が単元を通して身につけるべき力を共有するための工夫をする。
・ふり返りの質の向上やその方法，またはふり返りを活かす方法，評価の工夫をする。

③定期テストを授業改善に活かす

・結果の分析を行い，その結果を授業改善に活かすように検討する。
・学力調査の結果などから見えてくる課題を念頭においた問題作成に心がける。
・定期テストを授業指導の前に作成し、生徒につけたい力の確実な定着を図る。

④家庭学習の充実

・学習の意義を理解させながら，主体的に学習を進められるような仕組みを作る。
・家庭学習と連動した評価の工夫をする。
・集会や学活などを利用して，学習に対する意欲喚起や自覚を促す。
・計画的で継続的な家庭学習のために，各教科でどの程度の宿題が出ているのか，生徒も教師も分かるように小黒板に提示する。
・定期テスト前の学習時間の確保を図るために，テスト計画表をしっかりと記入させ，担任が点検・助言を行い，意欲化につなげる。
・必要に応じて，生徒主体のスタディマラソンなどを企画する。

⑤総合的な学習の時間を軸に探究学習を進める

・総合的な学習と各教科との関連を明確にする。
・探究の方法や知識・技能，表現の方法など総合的な学習の時間と各教科の双方向で活かしあう。

○研究の方法

①教師同士の学び合い

・校内研修の充実

研究の方向性や授業改善にむけた取り組みの共通理解を図る。

生徒の主体性を意識した授業実践研修を行う。

新学習指導要領に則った評価の研修を行う。

授業における学習用端末の有効活用の研修を行う。

・授業互見週間を通じて，教職員間で授業の検証を行い，授業改善の一助とする。

・校内サポート事業の活用や外部講師の招聘をもとに，指導助言を得る。

②学力調査・定期テストの結果及び生徒による授業アンケート

・全国学力・学習状況調査や県基礎学力調査，定期テストの結果を分析し，授業改善に活かす。

・生徒による授業アンケートを学期ごとに行い，分析・実態把握をし，授業改善に努める。

（２）温かい人間関係づくり

①学級経営・教科指導の充実

・教師と生徒，生徒同士が，温かい人間関係，信頼関係で結ばれ，高い目標に向かい切磋琢磨する学級集団，学習集団の実現を目指し，学級経営，学習指導にあたる。

②授業規律の確立～行動目標：学ベル「み・ゆ・き」4 箇条～

・ベル学（チャイムとともに授業を始める）

・きちんとした礼・挨拶

・正しい姿勢・服装で授業を受ける。

・話をしっかり聴く。

③絆づくり・集団づくり　　～行動目標「あすをはじく」～

・生徒会やリーダー会活動を充実させ，生徒の主体性を育むことや集団生活の向上に努める。

・学活や学校行事などを通して，仲間づくりや集団づくりに努める。

・傾聴する態度を育てる。

④道徳教育の充実

・聴き合い，話し合う道徳授業を実践する。

・中心発問の吟味や教師のコーディネート力を意識した授業づくりに心がける。

・構造的板書の工夫を図る。

・模擬授業や研究授業を通して，道徳の授業力向上を図る。

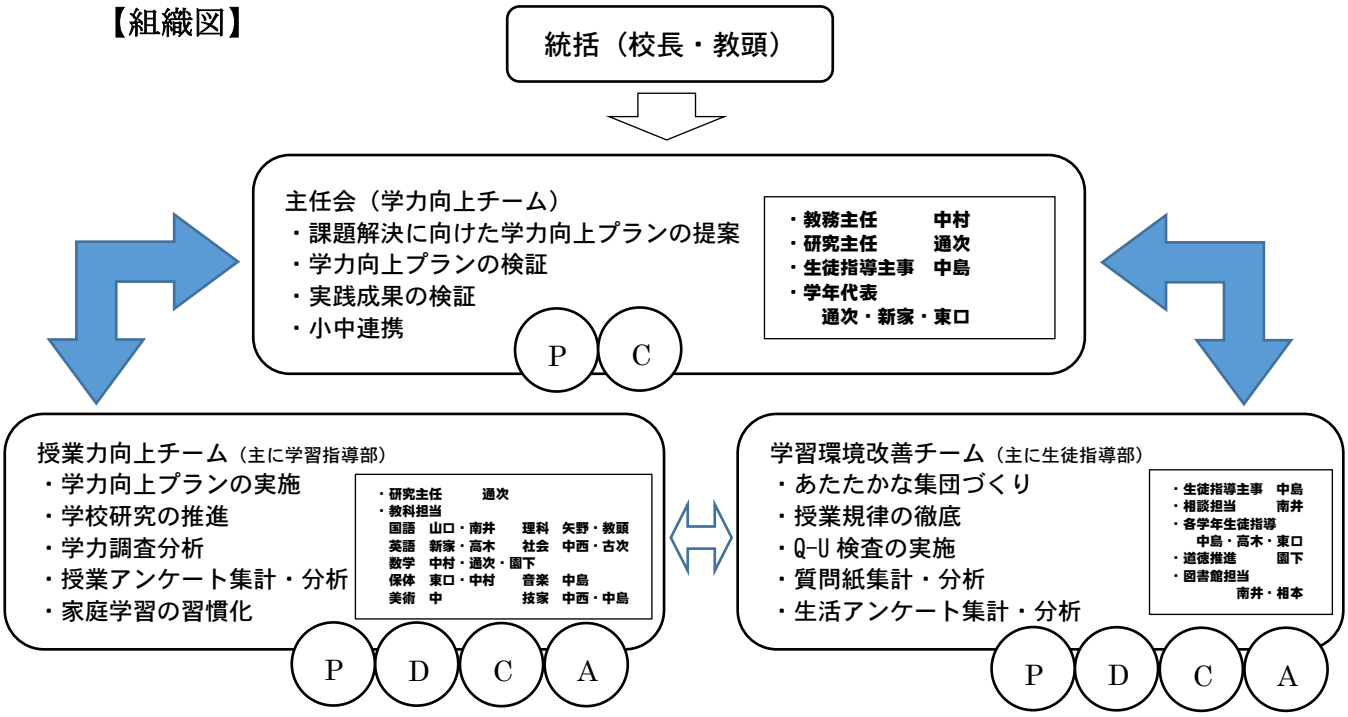
・ローテーションＴＴ道徳を実施する。

学級担任以外の先生がＴ１（学級担任がＴ２）となり授業を行う。

・場合に応じ，地域人材などの活用として教材に適したゲストティチャーを招聘する。

4　研究組織

【組織図】



5　研修計画

4 月	・校内研修（研究の方向性・授業スタイル確認） ・校内研修（特活・道徳・総合・キャリア教育）
5 月	・校内研修（指導案の作成について）
6 月	・授業互見週間Ⅰ
7 月	・学習アンケート【アンケートの分析及び対策】 ・校内研修（生徒指導　いじめ未然防止について） （救急法）
8 月	・校内研修（1 学期の取り組みの反省と 2 学期に向けて） （GIGA 研修）
9 月	・校内研修（授業改善に向けて）
10 月	・校内研修（計画訪問に向けて） ・授業互見週間Ⅱ
11 月	・校内研修（授業改善に向けて） ・計画訪問
12 月	・校内研修（2 学期の取り組みの反省と 3 学期に向けて） ・学習アンケート【アンケートの分析及び対策】
1 月	・校内研修（授業改善に向けて）
2･3 月	・校内研修（今年度の反省と来年度に向けて）

６．研究構想図

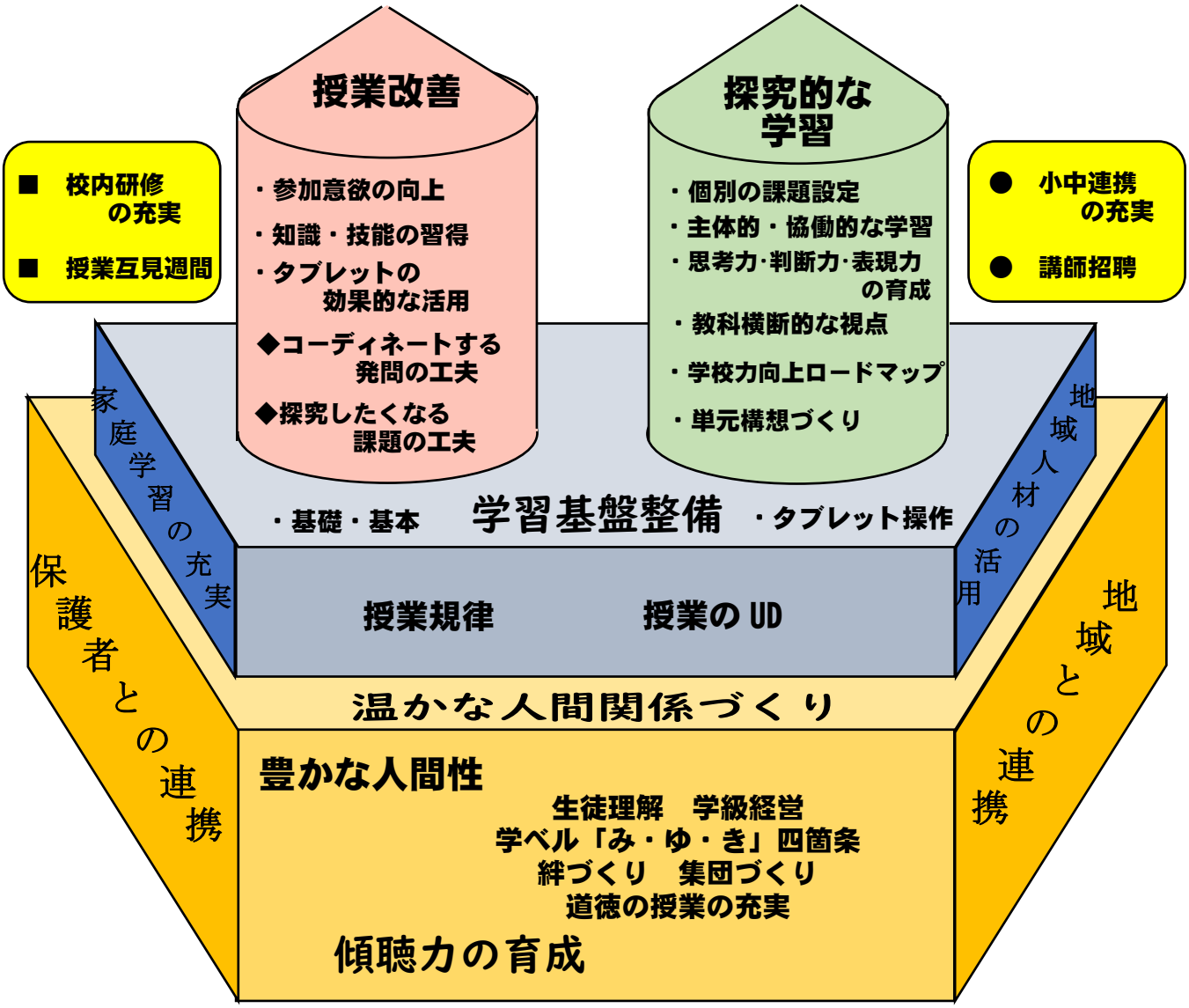
学校教育目標

温かい人間関係づくりを基盤にし、豊かな人間力のある生徒の育成

目指す生徒像

あ・す・を・は・じ・く

研究主題

「生徒が主体的に学び、思考を深めることができる授業の実践」

～聴き合い、話し合える人間関係を基盤に～